



アバン仙台 Jr. Youth News 2017年 7月号

第33回

快挙！クラブユース選手権東北大会出場決定！！

この大一番に「一体感」を感じた。



★5月20日(土)
アバン 2 VS 1 七ヶ浜SC
【得点者】 ①菅原凜 ②齋脩志

★5月27日【宮城県第6代表決定戦】
アバンツアーレ 4 VS 3 エポルティーボ
(前後半3-3)
(延長 1-0)

【得点者】
①白府大(PK) ③白府大
②齋脩志 ④佐藤里央

東北大会予選ブロック組み合わせ

★アバンツアーレ Aブロック 組み合わせ
①モンテディオ山形村山 (山形県第1代表)
②Jヴィレッジ (福島県第2代表)
③ヴェルディ岩手 (岩手県第3代表)
④アバンツアーレ仙台SC (宮城県第6代表)

6月24日(土)から東北大会が始まりました。

脩志くんの得点後、走り寄る文くん



激闘を終え、労をねぎらう

クラブユース宮城県予選から感じたこと

今、選手たちは「基礎」と「ポジショニング」にもう一度取り組んでいます。それは、予選から代表が決定するまでの試合を通して、チームの状況が表れたからです。

チームは確実に勝てるチームになっています。対戦したチーム関係者からも「面白くなった」と評価はいただいています。

ただ、こう思うのです。「結果は出ているが、今のままでよいのか?」と。これまでの戦い、またはその試合の映像を見てもチームが東北大会で戦うには、修正しなければならない部分があります。

それが、「基礎」と「ポジショニング」の部分です。ただ、基礎といっても「止める・蹴る」ではなく、ボールを保持した選手の「ボールを止めた直後の2秒・3秒」や「2タッチ目・3タッチ目」といったコントロールの部分です。

例えば、ボールを上手く止めることはできますが、攻撃に向かい出した直後に相手にボールを奪われることがあります。このことから、予選終了後から取り組んでいます。

上記の部分に取り組んだことで、改善部分も見られています。ですが、レベルが上がって落ち着いてプレーできても「ボール保持者の状況」や「パスを受ける前の相手選手との位置関係」が悪いときは、パスが相手の足に当たったり、パスカットされています。こういった細かい部分がパスの質、精度に関わってきます。

このように、ポジショニングの1歩・2歩にこだわり、ボールを奪われる場面を最小限にして、相手ゴール近くで自分たちの攻撃が継続してプレーできるように東北大会でもチャレンジしていきます。

★クラブユース東北大会日程
大会期間:6月24日(土)～7月9日(日)※決勝戦までの期間
◎グループリーグ1日・2日目 6月24日(土)～6月25日(日)
会場:岩手県八幡平市安比高原ASPASサッカー場
・6月24日:モンテディオY村山 14時50分～キックオフ
・6月25日:Jヴィレッジ 9時50分～キックオフ
◎グループリーグ3日目
会場:岩手県八幡平市安比高原ASPASサッカー場
・7月1日:ヴェルディ岩手 12時50分～キックオフ

東北大会への意気込み



齋脩志くん (さいしゅうじ)

東北大会の目標は、ベスト8に入ることです。

チーム一丸になれば達成できると僕は思っています。自分たちの細かいパス回しとスルーパスを武器にして相手ゴールに襲いかかりたいです。

自分たちの課題は、決定力です。東北大会では、丁寧にシュートを打つことを意識しながらコンパクトなスイングも意識してシュートをしたいです。

また、守りきることも課題です。東北大会決定戦のエポルティーボ戦でも逆転するものの一点を守りきることが出来ず延長戦まで行ってしまったので、東北大会では、チーム全員で集中して体を張ってゴールを守りたいです。

クラブユース選手権でアバンツアーレとして初めて東北大会に行くのでいい結果が得られるように頑張りたいです。

テクニカル部分への取り組み

6月のチームで取り組んでいるテーマが「ぬける動き」です。
今から紹介するテーマについては、「パスの連携」が向上していく上で
は欠かせません。このテーマへの取り組みによって試合内容も今よりも
レベルアップします。

今回、紹介する「ぬける」とは例
えば右の図①のような選手「A」のよ
うな動きをすることです。

選手「A」は、自分のいる位置から
コートの外側に向かってパスをもら
う動きをします。

そうすると、Aをマークしていた
ディフェンスもつられてついていき
ます。

それにより、Aがもともと居た位
置がスペースとなり、パスを受ける
ことが出来るようになります。

そして、その動きを見た選手「B」
がそのスペースにおりパスを受け
るといった連携が生まれます。

ただし、Aの役割は終わったわけ
ではありません。

図②のようにBからCの選手に出
されたパスに関わり、次の展開をつ
くこともできます。

このように、2～3人が連携し合
うと、他の選手にとっても良いこと
が起きてきます。

3人が動くことで、BやCが最初
にいた場所周辺にスペースが生まれ
、ゴールに向けた展開が次々と生
まれていくのです。

上記のことから、「ぬける動き」は「連携」を効果的にしていく動きだとわ
かってもらえたと思います。目立たない動きですが、連携を生み出す功
労者とも言えるでしょう。

私も現役時代、FWとして体格を活かしたポストプレーだけをしていま
したが、そのうちパスを受けて味方にパスを出すだけではサッカーを
楽しめなくなっていました。

そんな時、FWとしての幅を広げてくれたのが「ぬける動き」です。他
にも動きのバリエーションが増えたことで、味方を活かせることを知
り、サッカーがもっと面白くなりました。

そして、大学ではDFとなり、動きを使われる側になるとパスを受け
る時とそうでない時と狙いが絞らずらく、「嫌な動き」だと感じた経験
からも「ぬける動き」などの動き方が共有されてくると、自分も味
方もパスを貰える機会が増えていきます。

ただし、選手それぞれの動き出しが、ボールを持った選手に対して少
しでもポジショニングが遅いと当然、対戦相手もパスを出す選手
の狙いを予測してくるので、ボールを奪う機会を与えてしまうこと
にもなります。

そのため、動きながらパスが受けられるスペースやタイミングをつ
くり出すことで、パスを受けられる最適な選手やスペースを見つ
け、いい状態で味方にパスを出すことも、パスを受けることが
できるようになります。

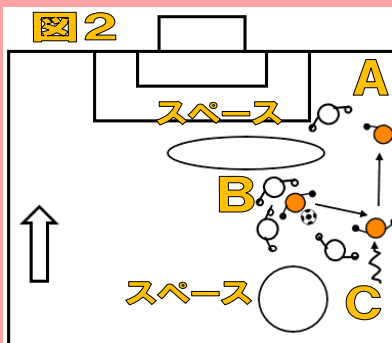
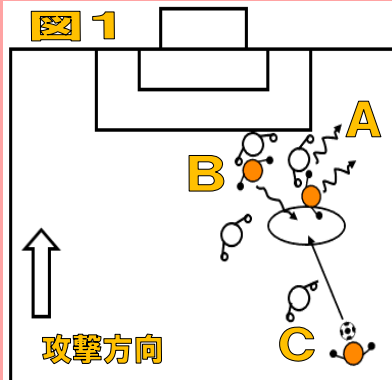
このようにサッカーは連携のスポーツです。そこに「居る」だけ
ではなく、「動き」の中で関り合うことが面白いのです。

皆さんも、まずはテレビでプロの試合を見てみてください。その
時には、ゴールシーンや相手をドリブルでぬく場面だけでなく、
テレビではごく自然と見過ごしてしまう細かい「動きの連携」
があるので、ぜひそういった部分にまで目を向けてみては
どうでしょうか。

動きの上手さがあるから、ゴールが生まれます。実際に
試合会場に行き観戦すれば、もっと私の言うことが理解
してもらえるとと思いますし、サッカーが面白くなると思
います。

今後も選手と追求していき、これからのサッカー活動
の中で役に立ててもらえればと思います。

【ぬける動き】



「成長エピソード」

今回は、3年生の菅原凜くん、2年生の浅見玲太くんを紹介
します。凜くんは小学生スクール生としてもアバン歴が長く、
経験もあり、頼りがいのある選手。浅見くんは、素直でまじめ
な選手。献身さでチームを支えてくれる選手の一人です。

菅原 凜 くん(すがわら りん)



僕は今、左サイドバックをやっ
ています。今のところ、まだ試合の
最初から最後まで、走りきるとい
うことができていないので、練習
などで頑張っています。

チームの活動としては、コー
チに言われたように活動の中で継
続できていない、だらしない行
動があります。東北大会に出場
するチームにふさわしい活動
をして、東北大会で勝てるよ
うに一緒に頑張っていきたい
です！

浅見 玲太 くん(あさみ りょうた)



僕が最近意識しているのは、
プレスの仕方やボールの奪い方
です。そのためにも、常に周囲の
状況を把握できるようになりた
いです。そして相手のトラップ
ミスやパスのずれ、少しのミス
も見逃さずボールを奪いきり、
攻撃につなげたいです。

目標は1vs1で負けない、粘
り強いDFをしてチームの役に
立ちたいと思っています。一つ
一つのプレーを集中していき
たいです。

富山コーチの思い出の一日



6月12日は富山コーチ
の誕生日でした。

今年で37歳となり、ア
バンの一員となって9年
が経ったことになりました。

さて、今回は記念する
日に思い出深い出来事
があったので、紹介
したいと思います。

私の誕生日の前日に2
年生の市川翔(いしかわ
しょう)くんとお母様
から特別なプレゼント
を頂きました。

それが上記の写真で私が手に持
っている旗のようなもの
です。「アバンツァーレ」な
どの文字や色も鮮やかな
のですが、実は、、、全
部が「写真」でできた「ア
ート作品」なんです！！
びっくりしました。

これまで撮りためてきた写
真を1時間くらいかけて
2人でなんと「1000枚」
をまず選び、アートア
プリを使って制作して
くれたそうです。これは、
コーチも思いがけない
プレゼントで胸が熱
くなりました。本当に
ありがとうございました。